







製品安全データシート (MSDS)

① 製品および会社情報

2016.4.1改定

製品名	ユーオイル 専用クリーナー
会社名	株式会社 シオン
住所	岩手県紫波郡矢巾町流通センター南3-8-1
電話番号	019-677-7060
FAX番号	019-637-3190
担当部門・担当者	製造開発室 藤田 悠

製品名		ユーオイル 専用クリーナー	
② 危険有害性の要約	GHS ラベル要素	 引火性液体及び蒸気  皮膚刺激  飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ	
	予 防 対 応 保 管 廃 棄	熱、火花、裸火、高温のような着火源から遠ざけること 禁煙 保護手袋、保護衣および保護眼鏡／保護面を着用すること 初期の火災には、粉末、炭酸ガス、泡消火器、乾燥砂などを用以消化する 涼しく風通しのところに保管する 産廃物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法律に従って処分する	
③ 組成・成分情報	単一製品、混合物の区別：混合物 成分：低臭性イソパラフィン		
	危険な含有成分	低臭性イソパラフィン  引火性液体及び蒸気  皮膚刺激  飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ	100%
官報公示整理番号・CAS番号・国連分類及び国連番号・PRTR法・化審法番号・労安法通知物質：該当なし			
④ 応急処置	吸入した場合	ミストを吸入した場合は、直ちに新鮮な空気のある場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。症状が改善されない場合は、医師の手当てを受ける。	
	皮膚に付着した場合	付着部又は接触部を石鹸で洗い流す。もし皮膚に炎症を生じた場合は、医師の手当てを受ける。	
	眼に入った場合	直ちに多量の水で15分以上注意深く洗うこと。眼の刺激が持続する場合は、眼科医の手当てを受ける。	
	飲み込んだ場合	水でよく口の中を洗浄し、無理に吐かせたりはせず、直ちに医師の手当てを受ける。	

⑤ 火災時の措置	消 火 剤 消 化 方 法 消化を行う者の保護	粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、乾燥砂、霧状の強化液。 水をかけると火災を拡大することがあるので、使用してはいけない。 初期の火災には、上記の消火剤を用いて消化する。 大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効。 消化作業の際には必ず保護具を着用し、風下で作業をしない。
⑥ 漏出時の措置	人体に関する注意事項 環境に対する注意事項 少量流出時 封じ込め及び浄化の方法・機材	十分な換気を心がけ、付近の着火源となるものを取り除く。 河川や下水に排出しないように注意する。 紙、布（ウェス）等に吸収させて回収し、それらは焼却または地域条例に従い廃棄する。 漏出した液は土砂等でその流れを止め、安全な場所に導き、密栓可能な空容器に出来るだけ回収し、そのあとを多量の水で洗い流す。その場合、中性洗剤等の分散剤を使用して洗い流す。
⑦ 取扱 上注意 ・ 保管	取 扱 上 の 注 意 保 管 上 の 注 意	取扱場所は火気厳禁とし、作業場は換気を十分に行う。吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように適切な保護具を着用する。 作業衣等に付着した場合は、その汚れを落とし、取り扱い後は手洗いとうがいを行って十分に洗う。 容器はしっかりと密閉して、換気良好な冷暗所に保管する。 保管の際も、発火元からは遠ざける。
⑧ 及び 保護 措置 防止	管 理 濃 度 許 容 濃 度 設 備 対 策 保 護 具	設定されていない 設定されていない 屋内作業中は発生源の密閉化又は局所排気装置を設置する 長袖の衣類を着用し、必要に応じてマスク、保護眼鏡等を着用する
⑨ 物理的及び化学的性質	外 観 等 流 動 点 蒸 留 範 囲 引 火 点 自 然 発 火 温 度 比 重 燃 焼 又 は 爆 発 範 囲 蒸 気 圧 蒸 気 密 度 粘 度 溶 解 性 オクタノール/水分配係数 分 解 温 度 蒸 発 速 度 (酢酸ブチル=1)	形状：常温で液体 色：無色透明 匂い：僅かな炭化水素臭 -70℃以下 173～194℃ 48℃（密閉式） 200℃以上 0.754（15℃） 上限：5.8% 下限：0.9% データなし 1.0以上 1.2mm ² /s（40℃） 水に難溶 7.2以上 データなし データなし
⑩ び ・ 反 応 性 安 定 性 及	安 定 性 ・ 反 応 性 避 け る べ き 条 件 混 触 危 険 物 質 危 険 有 害 分 解 生 成 物	常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。 高温、過熱。混触危険物との接触。 第一類、第六類の危険物、及び高压ガスとの混触は避ける。 燃焼によりCO、NO _x 等の有害ガスが発生する。

<p>⑪ 有害性情報 ※1</p>	<p>急性毒性 皮膚腐食性・刺激性 眼刺激性 呼吸器感作性 皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器・全身毒性 吸引性呼吸器有害性</p>	<p>経口：LD50 2000mg/kg以上（限界試験） 主成分とするn-,iso-パラフィン及びシクロアルカンの混合物では5000mg/kg以上 吸入：データなし ウサギで中ぐらいの皮膚刺激性 PII=4.9、14日後でも皮膚の不可逆的な障害が認められたとの結果、及びPII=4.2で不可逆的な障害は認められなかったとのデータがある。 ウサギで刺激性なし データなし なし 陰性 国際的機関で発がん性と評価された事例はない。 生殖毒性なし 単回暴露：データなし 反復暴露：区分外 炭化水素で粘度が低いので肺に入ると危険</p>
<p>情報 ⑫ 環境影響</p>	<p>水生環境有害性（急性） 水生環境有害性（慢性）</p>	<p>水に対する溶解性が極めて低く溶解度以下では有害影響はないと推定される。 イソパラフィンは概ね難分解であるが低蓄積。</p>
<p>⑬ の注意 廃棄上</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・横転しても内容物が外部へ流出しないような缶等に入れ、密栓する。 ・焼却する場合は産業廃棄物処理基準に従って焼却する。 ・外部委託の場合は廃油（可燃性）であることを明記し、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。
<p>⑭ 輸送上の注意</p>	<p>注意事項 国連分類 国連番号 指針番号</p>	<p>容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 消防法の危険等級IIIに準ずる運搬容器に収納して運搬する。 クラス3（引火性液体） 1993 128</p>
<p>⑮ 法令適用</p>	<p>消防法 船舶安全法 海洋汚染防止法</p>	<p>危険物第四類 第2石油類（非水溶性） 船舶による危険物の運送基準を定める告示 引火性液体（クラス3） ブテンオリゴマー、X類物質</p>
<p>⑯ その他</p>		<p>参考資料 1. ACGIH（2004、2005、2007年） 2. 日本産業衛生学会（2005、2006、2009年） 3. ICSC CARD 4. 神奈川県環境研究所データベース 5. 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 GHS分類結果データベース 6. 原材料MSDS 7. 製品安全データシート作成指針（日本化学工業協会） 8. 製品安全データシート作成資料 JIS Z 7253：2012 9. IARC（Vol.1～85）</p>

※1 人についての症例、疫学的情報を含む。

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づき作成しており、情報の正確さや安全性を保証するものではありません。取り扱いには最新の注意が必要で、ご使用者各位の責任において安全にご使用ください。本資料の記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。